

ふるさとの昔話

吉原の身代り地蔵さん



△ 正面が身代り地蔵さん(壁で顔が見えないのが残念です)

吉原1丁目、岳南鉄道吉原本町駅裏の陽徳寺のお地蔵さんは、願いごとを聞いてくれるというので有名です。

このお地蔵さんは、昔、駿東郡青野村(沼津市)の光明庵というところに祭られていましたが、ある年の夏、大洪水があつて浮島沼へ流されてしまい、それを宿場の人たちが救い上げ、陽徳寺の本尊にしたということです。

目やにいっぱいの地蔵さん

吉原1丁目を寺町と呼んでいたころのことです。

寺町に悪性の眼病が大変はやつたことがありました。

町の人々は困って、このお地蔵さんに願をかけると、眼病はたちまち潮が引くように治つたといひます。

それからは、身体の弱い子、はしかの子、おできの子など、「どうか治してください」とお願いすると、大抵聞き入れてくれたということです。町の中から眼病がなくなったとき、このお地蔵さんを見たら、目に

いっぱい、目やにがついていたのでいつのころからか、身代り地蔵と呼ばれるようになったそうです。

昔と変わらぬ縁日のにぎわい

毎年7月23日が地蔵堂の縁日で、盛大に地蔵さんを祭ります。

昭和23年以来、堂守りとして地蔵堂を守っている石井松庵さんは、「ふだんは願かけに来る人は、ほとんどいません。でも毎年の縁日は昔と変わらず大層なにぎわいを見せますね。

しかも不思議と宗旨にかかわらずいらしゃいますね」と縁日のようすを語ってくれました。

地名の由来

増川



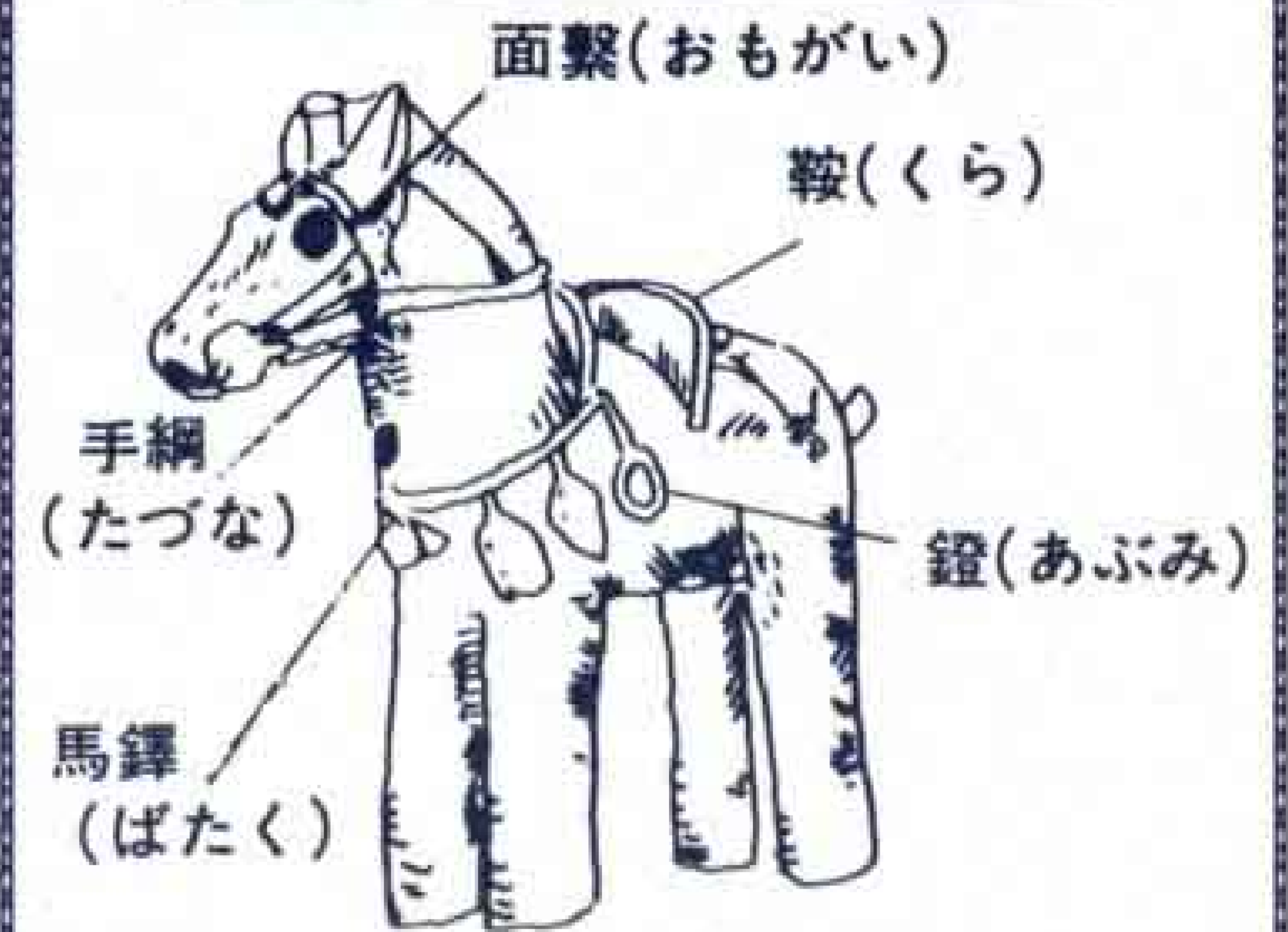
有名な浅間古墳のある部落を増川と呼んでいますが、増川という地名が起こつた理由はわかりません。

一説では、この村に豊富なわき水があつて、そこが升形ますになっていたのが増川と呼んだのだと言ひますが確かではありません。この部落は、愛鷹山のすそが南へ伸びた舌状台地の上に開けた部落で、最も高燥な健康地帯に位置しています。

古墳のはなし ⑬



古墳と祖先の生活



馬具(名称)

ばくまいそう 馬具が埋葬されるのは?

6世紀(1400年前)以後につくられた古墳からは「馬具」を出土する例が多くあります。

では、なぜ「馬具」が古墳に埋葬されるのでしょうか。

これは6世紀ごろ、多くの人人が馬を利用していたために、死後も馬を利用できるようにという心遣いからです。

馬の埴輪はにわや馬具を埋葬するほか、馬を埋葬した古墳もあります。市内では「横沢古墳」や「中里K第99号墳」などから馬具が出土しています。

鏡は何に使われるの?

鏡は、中国では姿を写す道具や工芸品としてつくられていたようです。

しかし、日本の古代社会では神が宿る「神器」と考えられ、権力の象徴として使われていたようです。

こちら編集室

カラカラ天気が続き、県内各地で水不足の影響が出ています。幸い本市では取水制限などに至っていませんが、空気が乾燥しているので風邪や火災にはくれぐれもご用心。